



令和7年度 幼児教育研修（年齢別運動遊び3・4・5歳児第3回）  
 「こども主体の保育のための指導計画」～運動遊びと環境構成～  
 日時：令和7年 12月2日（火）15：00～17：00  
 会場：足立区役所 庁舎ホール  
 講師：日本体育大学 教授 齊藤 多江子 氏

## 週案を立ててみよう

年齢別のグループで、それぞれ持ち寄った自分の週案を基に話し合い、どれか一つ決めます。決めた週案を、『子ども主体のための保育のための指導計画』冊子を参考にしながら、実際に立てていきます。



### 子どもの様子や声を聞いてみました



- ★家での遊びを園でもやりたい。遊びを見た友達もやりたがっている。
- ★「おおきなかぶ」のお話を読み聞かせすると、自分たちもかぶの種を植えたい。  
→実際にかぶの種を植えてみた。
- ★どんぐり拾いをした時、どんぐりの帽子が取れてしまい、ポンドで貼って飾った。  
→「作品展みただね」と、作品展ごっこにつながった。

子どもの声を叶えてあげる環境を用意することが大事。



声を聞くことで、どんな環境が必要なのか自ずと見えてくる。



### ポイント



- 同じ姿でも、思っている人によって読み取り方が違う。  
→子どもの姿の実態を話し合う、共有し合うことが大事である。
- 経験してほしいねらいからどういう援助が良いのか。
- ねらいの中身によって、援助の方向性が違ってくる。
- 5領域の視点を意識して立てていく。

保育所保育指針等 解説を参考にしながら計画を立てていくと良い。



### やってみよう!

### 言葉を紡ぐ



ねらいを大きなくりの言葉で表現してしまうと、「何をやりたかったのか」とわからなくなるので、伝えたいことが大きい言葉にならないようにする。そのためにはクラスで語り合うことを大切である。今経験してほしいことを、お互いに出し合い、言葉で紡ぐことが大事である。

### 3歳児担任グループより ●発表会に向けた活動:題材『三びきのやぎのからがらどん』●

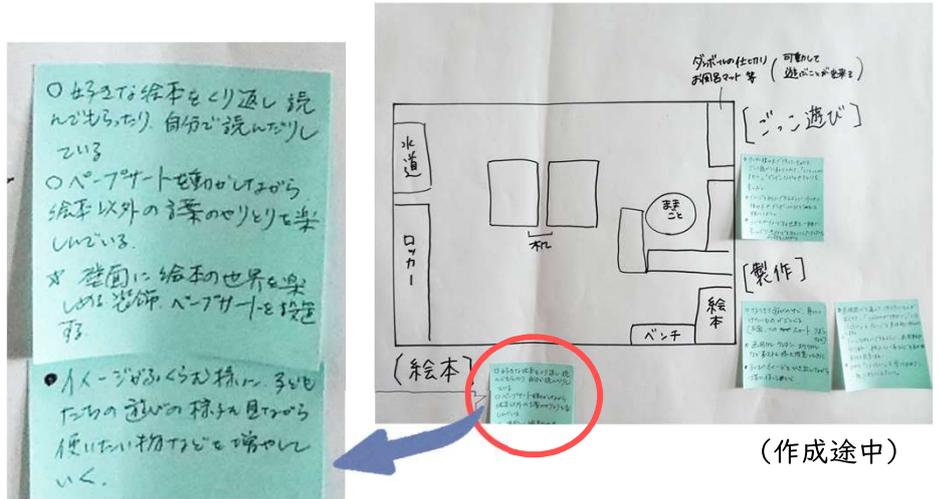
ねらい:自分なりの表現を楽しんでほしい

#### 子どもの姿

- ・室内、園庭、ホールで再現遊びを楽しむ。
- ・子どもたちの言葉で楽しんでいる。

#### 保育者の援助・環境構成

- ・子どもたちで色々な場面で遊べるような環境をつくる。
- ・子どもたちが作ったもので遊べるようなものを用意する。(ペープサートなど)
- ・楽しいという気持ちを共有する。



(作成途中)

○:子どもの姿 ●:保育者の援助 ☆:環境構成

### 5歳児担任グループより ●発表会に向けた活動:●:題材が決まり、取り組んでいる

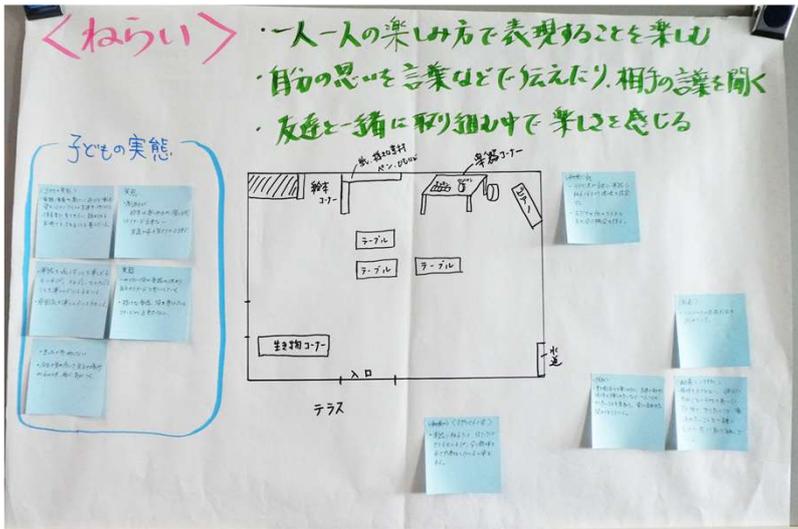
#### 子どもの姿

- ・「参加しない」「やりたくない」という姿もある。
- ・楽器あそびを「まだやりたい」とやりたがっている。
- ・楽しむためにルールを守って遊ぶ(順番など)ことが楽しいと気付いた

- ・子どもの姿の実態からねらいを決める。
- ・必要な環境がみえてくる。

実態に合わせた環境を考える

- ・自由に楽器に触れる環境
- ・他クラスや友達に見せ合う環境



(作成途中)

## 研修生の報告書より

★週案の作成について、まずは目の前の子どもの姿を捉え、どのような体験、経験をしてほしいのかよく考えていきたい。そして自身がやりたいと思う保育について、自分の言葉で計画にのせていきたい。計画が大まかになったり、どの年齢でも当てはまるような不透明なものではなく、今の子どもたちにとって成長できる部分やこうなって欲しいと思うこと、こんな経験を積んで欲しいと感じることについてよく考え、計画、保育に落とししていきたいと感じた。

★運動遊びの3回の研修の中で何故、週案、子どもの実態を考えることが多い研修なんだろうと思っていたが、子どもの実態から次にどんなことをして欲しいか、どんな遊びになってどんな経験をしたいかを考え、言葉にすることによって、より具体的に考えていけるんだということを学んだ。

★週案を立案する際に、「言葉で紡ぐ作業」を丁寧に行うことの大切さをあらためて学んだ。グループで検討する中で、ねらいの言葉が大きすぎてしまうと、子どもの姿に対する具体的な援助が見えにくくなってしまふと助言をいただいた。大きかったねらいの言葉を保育者の願いを言葉にしていくと具体的なねらいになり、環境構成や配慮が見えやすくなることを感じました。子どもたちにどのような経験をしてほしいのか、自分がどのような保育をしていきたいのかを具体的な言葉で表していくことが、子どもの姿に沿った保育につながることを学んだ。